

お家のベランダや学校で稲づくりにチャレンジ！ お米ってこんなふうにできるんだ！

「バケツ稲づくり」体験者が1,000万人超え！

平成30年3月12日(月)より申し込み受付開始

JAグループは、「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、次代を担う子どもたちに、バケツで稲づくりを手軽に体験してもらおう「バケツ稲づくり体験」事業を推進しています。種まきから収穫、脱穀、そしてお米を炊いていただくところまで、初心者でも簡単に体験できるのが特長です。

栽培アイテムをまとめた「バケツ稲づくりセット」=写真を、全国の小学校・幼稚園・保育園などの教育機関、個人の方々に無償、送料無料でお届けします。総合的な学習の時間や社会科の食育教材として、ご家庭では、お年寄りとお孫さんが楽しみながら、昔の田風景を伝える家族団らんのツールとしても活用されています。日本の主食であるお米や、農業への関心と理解を深めるのに役立ててもらっています。

セット配布数は、平成元年の事業開始から平成30年度の実績で1,000万人を超える見込みです。1,000万人達成時には、当該する教育機関の紹介などのイベントも予定しています。

■学校やご家庭のベランダでお米づくりを体験してみませんか

希望する学校や幼稚園、保育園、認定こども園、子ども会などの教育機関、公共施設、公益法人、自治会、個人の方からの申し込み受付は平成30年3月12日(月)より開始します。

(平成30年の配布は、33万セット用意)

セットの中身は▽バケツ1個分の種もみ・肥料▽栽培マニュアル▽お名前シールです。バケツと土があれば、玄関先でもマンションのベランダでも栽培OKです！稲の生長を観察し、収穫の秋を迎える…。

“小さな田んぼ”での作業を通じて、季節の移ろいを感じつつ、日本の原風景を懐古しながら農業を学んでみませんか。



バケツ稲づくりセット内容

■JAグループWebサイト「お米づくりに挑戦」で紹介

「バケツ稲づくりセット」のお申込み方法などは、JAグループみんなのよい食プロジェクトHP「お米づくりに挑戦」Webサイト（「バケツ稲」で検索）でご覧いただけます。また、同サイトでは、バケツ稲を自由研究に活用できるヒント集や栽培マニュアルなどを掲載しているほか、「バケツ稲づくり栽培日記」で平成30年度は、幼稚園、保育園、小学校、子ども会などからの投稿を掲載し、稲の成長過程を時系列にご覧いただく予定です。

<本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先>

JA全中広報デスク（株メディコ内） 担当：松本

TEL：03-3457-7571 携帯：090-6111-9766 e-mail：matsumoto@medico-pr.co.jp

<一般のお客様からのお問い合わせ先>

バケツ稲づくり事務局 TEL：03-6281-5822（午前10時～午後5時 ※土・日曜日・祝日は除く）



「バケツ稲づくりセット」申し込み要領

■セット内容	①「種もみ（コシヒカリ）」、②「肥料（化成肥料）」、③「栽培マニュアル（解説書）」 ④「お名前シール」（児童のお名前、栽培開始日を記入して、バケツ側面に貼付できます）
■ご提供数	33万セット ※「バケツ稲づくりセット」のお届けは、日本国内に限ります。
■受付け期間	学校・団体・個人受付け：平成30年3月12日（月）～ ※配布予定数がなくなり次第、受付を終了します。（5月下旬終了予定）
■申し込み方法	パソコン・スマートフォンからお申し込みいただけます。 〈インターネットお申し込み先〉 JAグループみんなのよい食プロジェクトホームページ「お米づくりに挑戦Webサイト」 https://life.ja-group.jp/education/bucket/ 若しくは、 バケツ稲 で 検索 の「バケツ稲づくりセットのお申し込みフォーム」から、お客様情報を入力の上、送信してください。 お申し込みを受け付けた後に、確認メールをお送りします。 (1)学校・幼稚園、保育園、認定こども園、子ども会などの教育機関・公共団体・公益法人の場合 … 学校・団体用お申し込みフォーム よりお申し込み ※学校、幼稚園・保育園・認定こども園、子ども会へは、無償、送料無料でお届けいたします。 それ以外の団体、法人への送料は、1梱包(200セットまで)につき、全国一律1,030円の着払い送料をいただきます。 (2)個人の場合 … 個人用お申し込みフォーム よりお申し込み ※個人へは、無償、送料無料でお届けいたします。 ※1回の申し込みで、種もみ・肥料・お名前シールを5セット、栽培マニュアルを1部送付します。 (3)JA・JAグループの場合 … JA・JAグループ用お申し込みフォーム（2パターンあり） よりお申し込み ※管内の学校・団体申し込みをお取りまとめのJAへは、無償・送料無料でお届けします。
■問い合わせ先	JAグループ バケツ稲づくり事務局 〒102-8409 東京都千代田区一番町23-3 日本農業新聞 TEL.03-6281-5822 受付時間：月～金 午前10時～午後5時（土・日曜日・祝日は除く）
■主催	全国農業協同組合中央会
■後援	文部科学省、農林水産省、全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会、全国連合小学校長会
■協賛	全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、全国厚生農業協同組合連合会、(株)日本農業新聞、(一社)家の光協会、(一社)全国農協観光協会、(公社)米穀安定供給確保支援機構
■推薦	全国小学校理科研究協議会、全国小学校社会科研究協議会、全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会、日本理科教育協会、日本理化学協会、日本生物教育会

詳しい内容は、下記のQRコードからアクセスできます。



バケツ稲づくり栽培風景



事務局のバケツ稲



(群馬県)小学校での取組みの様子



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

バケツ稲づくり栽培日記 (JAグループみんなのよい食プロジェクトHP「お米づくりに挑戦」Webサイトにアップしています)

<p>5月2日 土づくり</p> <p>黒土6、赤玉土(中粒)3、鹿沼土(小粒)1の割合で土を用意して、ビニールシートに広げて乾かします。</p> 	<p>7月18日 中干し</p> <p>バケツの水を抜いて土を乾かす「中干し」は、草丈40~50cm程度、または茎数が20本以上になったときです。</p> 
<p>5月8日 芽出し</p> <p>種もみを水に浸して4日ほどで、種もみから白い芽が出てきます。</p> 	<p>8月7日 稲の花</p> <p>中干し後、稲の成長はさらに盛んになり、幼穂(稲の赤ちゃん)を作り始めます。出穂と開花がほぼ同時に行われます。</p> 
<p>5月15日 種まき</p> <p>水とよく混ぜて泥になった土にセットの「肥料(1袋)」を入れ、種もみを6~7mmの深さに植えます。</p> 	<p>9月4日 黄金色に実った稲穂</p> <p>苗の移しかえ(田植え)から112日。稲穂のこうべが垂れてきて、収穫が楽しみです。</p> 
<p>5月24日 苗の成長</p> <p>1日に3cmほど葉が伸びて、種まきから1週間で葉の背だけは10cmほどに成長します。</p> 	<p>10月2日 稲刈り</p> <p>穂が出て35~45日頃、稲の約90%が黄金色になると稲刈りの目安です。10日位前から水を抜いて土を乾かしてからハサミで根元から5cm位の所を切ります。</p> 
<p>5月29日 移しかえ</p> <p>芽が出て20日たち、葉が4枚ほどに増えたら、元気な苗を4~5本まとめてバケツの中心に植えかえます。</p> 	<p>10月8日 はさ掛け</p> <p>刈り取り直後の稲は、水分が多いので根元を紐で縛り、雨の当たらない場所で10日ほど乾燥させます。</p> 
<p>6月12日 稲の成長</p> <p>苗の移しかえから2週間。根がしっかりと土に張って「分けつ(稲の枝分かれ)」が活発になってきました。この時期には、水の量を4~5cmの深さに増やします。</p> 	<p>10月10日 脱穀・もみすり・精米</p> <p>茶わんの中に穂を入れて引くと、もみが容器の中に残ります。すり鉢にもみを入れて柔らかいボールですり上げます。玄米を瓶に入れて棒でついて精米します。</p> 

バケツ稲づくりを経験している教育機関の声

- ・稲の生長の様子を日常的に目にすることができ、子ども達の学びが深まりました。(岩手県普代村 小学校)
- ・日本人の主食である米の生産体験を通じて学習する機会をいただき感謝いたしております。(茨城県銚田市 小学校)
- ・子供たちにお米が育つまでを知らせ、ごはんを大切に食べるよう伝えます。(東京都大田区 保育園)
- ・初めての取組みでしたが、詳しい手引書があり、大変助かりました。おかげで豊作でした。(神奈川県鎌倉市 小学校)
- ・育つかどうか心配しましたが、お米ができた時は感激でした!! ありがとうございます。(愛知県名古屋市 小学校)
- ・9kgのお米を収穫しました。収穫したお米をおいしく児童・保護者でいただきました。(奈良県香芝市 小学校)

